



平成5年度指定 高指第74号

高瀬 竜一

【雅号】 竜一 りゅういち

生年／昭和3年 指定技術名／漆器・蒔絵



さびえせんかもんまるぼん

錆絵仙果文丸盆

仙果と呼ばれ、縁起の良い果物である桃・蕃柘榴（ばんざくろ）をモチーフにした丸盆である。錆絵により高上げされた桃の白、柘榴の紅が好対照を描き、確かな存在感を与えており、背景の市松模様は、画面に奥行きを与え、果実の凛とした佇まいをさらに強調している。玉石（蠟石）や厚貝、蒔絵を施すなど構成力や技の奥深さを感じさせる。

平成8年作

素材・技法／木（朴材）・錆絵

寸法／高さ2.3cm×幅33.5cm×奥行33.5cm

〔表彰・受賞歴〕

昭和45年 日本伝統工芸展初入選
平成 6年 富山県中小企業団体中央会表彰（卓越技術者）
平成 7年 伝統的工艺品産業功労者表彰（中部通産局長）
平成10年 高岡市市民功労者表彰
平成15年 富山県功労表彰
平成18年 卓越した技能者（現代の名工）表彰
平成20年 黄綬褒章

〔経歴〕

昭和21年 父直（想風）に師事し漆芸加飾を習得
昭和44年 県の推薦で伝統工芸技術伝承者研修会金沢会場にて受講（3ヶ月間）
昭和49年 社団法人日本工芸会正会員認定
昭和52年 高岡市展審査員（以後、7回務める）
昭和60年 日本文化財漆協会正会員
昭和61年 高岡市伝統工芸産業技術者養成スクール講師（～平成17年）
平成元年 名古屋外堀公館（名古屋市迎賓館）貴賓室正面の漆壁画四面の加飾を担当
平成 4年 富山県美術工芸作家連盟副委員長木舟町の御車山（鉾留・胡蝶の新調）に、塗りと金箔押し仕上を担当
平成 6年 高岡市伝統工芸産業技術保持者指定
平成20年 高岡市伝統的工艺品技術・技法の継承者育成事業講師